

学校関係者評価 報告書

対象期間:2022年4月1日~2023年3月31日

学校法人:早稲田大学

早稲田大学芸術学校

目次

1. 評価実施の概要	3
2. 評価結果	4
1. 学校の教育理念(AA Idea)	4
2. 学校評価の基本方針	4
3. 学校の重点目標	4
4. 評価項目	
(1) 教育理念・目的・人材育成像	5
(2) 学校運営	6
(3) 教育活動	
① 目標の設定等	7
② 教育方法・評価等	8
③ 資格試験	9
④ 教職員	9
(4) 学修成果	11
(5) 学生支援	12

(6) 教育環境	13
(7) 学生の受入れ募集	14
(8) 法令等の遵守	15
(9) 社会貢献・地域貢献	16
(10) コロナ禍への対応	17
5.総 評	18

2022年度 早稲田大学芸術学校 学校関係者評価報告書

1. 評価実施の概要

評価目的：「早稲田大学芸術学校 2022年度 自己評価報告書」を対象とした学校関係者評価委員による外部評価

評価実施者：学校関係者評価委員会

実施日時：2023年5月17日～24日

※メールを用いた持ち回り審議により実施

学校関係者評価委員：

種別	所属	役職名	氏名	備考
学識経験者	早稲田大学 人間科学学術院	教授	加藤 麻樹	本委員会委員長
関係業界	建築家、 前橋工科大学 神奈川大学工学研究所	名誉教授 客員教授	石田 敏明	本委員会副委員長
専修学校団体・ 関係団体	稲芽会、 株式会社竹中工務店	稲芽会 副理事長	田中 茂	

(敬称略)

評価の方法

本校自己評価委員会において承認された「2022年度 自己評価報告書」を各委員に送付し、評価項目ごとに1（不適切）2（やや不適切）3（ほぼ適切）4（適切）の評価判定を受けた。各委員の評価の平均値（小数点以下第2位を四捨五入）を最終評価とし、また記述意見がある場合は項目ごとに取りまとめた。（記述意見がない項目については項目見出しのみ記載）

2. 評価結果

1. 学校の教育理念(AA Idea)

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 4.0

■委員からの評価・意見

2. 学校評価の基本方針

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 4.0

■委員からの評価・意見

・評価委員の任期は最長5年程度とし、交代時期が重ならないように調整できればよい。

3. 学校の重点目標

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 4.0

■委員からの評価・意見

4. 評価項目

(1) 教育理念・目的・人材育成像

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 3.7

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
学校の理念・目的・育成人材像は定められているか(専門分野の特性が明確になっているか)	4.0
学校における職業教育の特色は何か	4.0
社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか	4.0
学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・関係業界等に周知がなされているか	3.0
各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか	3.7

■委員からの評価・意見

- 「学校の理念・目的・育成像は定められているか」
- 「学校における職業教育の特色は何か」
 - ・教授陣、カリキュラムの充実は芸術学校の大きな特色として他と差別化できている。
- 「社会のニーズ等を踏まえた学校の将来構想を抱いているか」
 - ・大枠としての社会ニーズと個々の学生要望が融合した構想を期待する。
- 「学校の理念・目的・育成人材像・特色・将来構想などが学生・関係業界等に周知がなされているか」
 - ・芸術学校の潜在的能力に見合う知名度が若手従事者に対しても一層周知される必要がある。
 - ・学部と連携した早稲田建築ブランドを構築し、業界へ周知できればよい。
- 「各学科の教育目標・育成人材像は、学科等に対応する業界のニーズに向けて方向づけられているか」

- ・コミュニケーションや情報共有でデジタルの基礎知識を求められる中で、設計・建設プロセスを進める場面が増えている。それらへの対応に関する改善を期待する。

(2) 学校運営

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 3.8

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
目的等に沿った運営方針が策定されているか	4.0
運営方針に沿った事業計画が策定されているか	4.0
運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか	4.0
人事、給与に関する規程等は整備されているか	4.0
教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか	4.0
業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか	4.0
教育活動等に関する情報公開が適切になされているか	3.3
情報システム化等による業務の効率化が図られているか	3.3

■委員からの評価・意見

- 「目的等に沿った運営方針が策定されているか」
- 「運営方針に沿った事業計画が策定されているか」
- 「運営組織や意志決定機能は、規則等において明確化されているか、また、有効に機能しているか」
- 「人事、給与に関する規程等は整備されているか」
- 「教務・財務等の組織整備など意志決定システムは整備されているか」
- 「業界や地域社会等に対するコンプライアンス体制が整備されているか」

●「教育活動等に関する情報公開が適切になされているか」

- ・コロナ禍もありサイトを介した情報公開が中心となったが、今後の有機的な周知活動に期待する。
- ・サイトでの情報公開はここ数年で充実してきたが、それをどう知ってもらうかが課題。

●「情報システム化等による業務の効率化が図られているか」

- ・学校関係者評価の集計方法改善が望まれる。

(3) 教育活動

①目標の設定等

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 4.0

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか	4.0
教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか	4.0

■委員からの評価・意見

●「教育理念等に沿った教育課程の編成・実施方針等が策定されているか」

●「教育理念、育成人材像や業界のニーズを踏まえた学科の修業年限に対応した教育到達レベルや学習時間の確保は明確にされているか」

- ・芸術学校の学生の年齢構成内訳の特性から修業年限に必ずしも対応を強いられるものではなく、現状で十分にニーズに応じている。

②教育方法・評価等

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 4.0

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか	4.0
キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか	4.0
関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか	4.0
関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか	4.0
職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか	4.0
成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか	4.0

■委員からの評価・意見

- 「学科等のカリキュラムは体系的に編成されているか」
- 「キャリア教育・実践的な職業教育の視点に立ったカリキュラムや教育方法の工夫・開発などが実施されているか」
- 「関連分野の企業・関係施設等や業界団体等との連携により、カリキュラムの作成・見直し等が行われているか」
- 「関連分野における実践的な職業教育（産学連携によるインターンシップ、実技・実習等）が体系的に位置づけられているか」
- 「職業教育に対する外部関係者からの評価を取り入れているか」
- 「成績評価・単位認定、進級・卒業判定の基準は明確になっているか」

③資格試験

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント：3.7

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
資格取得等に関する指導体制、カリキュラムの中での体系的な位置づけはあるか	3.7

■委員からの評価・意見

- ・専門士の称号を受けた者は大学3年編入が認められる場合もあるので、メリットとしてアピールすると良い。

④教職員

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント：4.0

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか	4.0
関連分野における業界等との連携において優れた教員(本務・兼務含む)を確保するなどマネジメントが行われているか	4.0
関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか	4.0
職員の能力開発のための研修等が行われているか	4.0

■委員からの評価・意見

- 「人材育成目標の達成に向け授業を行うことができる要件を備えた教員を確保しているか」

- 「関連分野における業界等との連携において優れた教員（本務・兼務含む）を確保するなどマネジメントが行われているか」
- 「関連分野における先端的な知識・技能等を習得するための研修や教員の指導力育成など資質向上のための取組が行われているか」
- 「職員の能力開発のための研修等が行われているか」

(4) 学修効果

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント：3.4

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
就職率の向上が図られているか	3.7
資格取得率の向上が図られているか	3.0
退学率の低減が図られているか	3.0
卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか	3.7

■委員からの評価・意見

●「就職率の向上が図られているか」

・数値化は必要だが学校の趣旨や本人希望の方向へ進められるサポートができると良い。

●「資格取得率の向上が図られているか」

・学生の特性上、必ずしも卒業年度の資格取得を限定できないと考える。

・建築士については卒業後すぐに一級受験が可能な状況なので、学校の趣旨とは異なるかもしれないが必要なサポートはあってよい。

●「退学率の低減が図られているか」

・学生の特性上、特に社会人学生を理工学部 of 学生と比することはできない。十分に指導が行われている。

・勤務と学修の両立はかなり厳しい状況のため、個人に応じたアドバイスの親密さをより一層希望する。

・仕組みではなく教員の熱心さに支えられているところはあるが、低減できるよう取り組んでいると感じる。

●「卒業生・在校生の社会的な活躍及び評価を把握しているか」

・学生情報の収集は彼らの活動の周知に必要であり、卒業生との連携で十分に実施されている。

・業界で活躍する卒業生と在學生との直接的な交流の促進を希望する。

・卒業生の活躍を学校 SNS で積極的に発信するなど、情報収集・把握ができている。

(5) 学生支援

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント：3.7

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
進路・就職に関する支援体制は整備されているか	4.0
学生相談に関する体制は整備されているか	4.0
学生に対する経済的な支援体制は整備されているか	3.7
学生の健康管理を担う組織体制はあるか	4.0
卒業生への支援体制はあるか	3.7
社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか	4.0
大学・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか	4.0
関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等が行われているか	2.3

■委員からの評価・意見

●「進路・就職に関する支援体制は整備されているか」

・自主性のある学生が多いので、全体としてよりも個々のサポートができていればよい。

●「学生相談に関する体制は整備されているか」

●「学生に対する経済的な支援体制は整備されているか」

・民間奨学金の発掘や紹介の一層の充実を望む。

●「学生の健康管理を担う組織体制はあるか」

●「卒業生への支援体制はあるか」

・まずは支援よりも連絡手段やチャンネルを増やしていく仕組み作りが大切。

- 「社会人のニーズを踏まえた教育環境が整備されているか」
 - ・制度、仕組みの有無に関係なく、学生の熱意に応えられるような環境が整備できている。
- 「大学・高校・高等専修学校等との連携によるキャリア教育・職業教育の取組が行われているか」
 - ・早稲田大学との連携は芸術学校の特徴なので、とても良い取り組みができています。
- 「関連分野における業界との連携による卒後の再教育プログラム等が行われているか」
 - ・今後の検討課題として期待する。
 - ・再教育プログラムニーズの把握強化を望む。
 - ・芸術学校自体が再教育のための学校でもあるので、卒業後の再教育はそれほど考えなくても良いのではないかと。むしろ、卒業後に活躍しているOB・OGの学校へのフィードバックが必要と考える。

(6) 教育環境

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 4.0

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか	4.0
学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備しているか	4.0
防災に対する体制は整備されているか	4.0

■委員からの評価・意見

- 「施設・設備は、教育上の必要性に十分対応できるように整備されているか」
- 「学内外の実習施設、インターンシップ、海外研修の場等について十分な教育体制を整備
- 「防災に対する体制は整備されているか」
 - ・学生だけでスタジオを使う機会が多いので、防犯、防災には細心の注意をお願いしたい。

(7) 学生の受入れ募集

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 3.7

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか	3.3
学生募集活動は、適正に行われているか	4.0
学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか	3.3
学生納付金は妥当なものとなっているか	4.0

■委員からの評価・意見

- 「高等学校等接続する機関に対する情報提供等の取組が行われているか」
 - ・認知度向上の継続的な取り組みを期待する。
 - ・ダブルスクールや社会人教育に関する周知に加え、工業高校も含む高等学校への周知がより一層望まれる。
 - ・専門業者への委託など新たな取り組みを行っている。継続して改善を行って欲しい。
- 「学生募集活動は、適正に行われているか」
 - ・マスとして告知先が難しいと思うが、学校の特性から様々なバックボーンを持つ学生が集うような活動を望む。
- 「学生募集活動において、資格取得・就職状況等の情報は正確に伝えられているか」
 - ・出願件数からは芸術学校の魅力が十分に伝えられていない可能性が残る。今後一層の周知に期待する。
 - ・学校の特性と重ね、正直・正確に伝えることができれば良い。
- 「学生納付金は妥当なものとなっているか」

(8) 法令等の遵守

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 4.0

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか	4.0
個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか	4.0
自己評価の実施と問題点の改善を行っているか	4.0
自己評価結果を公開しているか	4.0

■委員からの評価・意見

- 「法令、専修学校設置基準等の遵守と適正な運営がなされているか」
- 「個人情報に関し、その保護のための対策がとられているか」
- 「自己評価の実施と問題点の改善を行っているか」
- 「自己評価結果を公開しているか」

(9) 社会貢献・地域貢献

■評価結果：ほぼ適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 3.3

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか	3.3
地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか	3.3

■委員からの評価・意見

- 「学校の教育資源や施設を活用した社会貢献・地域貢献を行っているか」
 - ・社会貢献活動は芸術学校の知名度向上に寄与することから、一層の貢献を期待する。
 - ・学外イベントを学校が所在する新宿区で行うことで地域に貢献している。
- 「地域に対する公開講座・教育訓練(公共職業訓練等を含む)の受託等を積極的に実施しているか」
 - ・社会寄与による公共性の周知が期待される。
 - ・20年弱の歴史があるので、講演会ダイジェストを整理し、Web上で公開するのも良いと思われる。

(10) コロナ禍への対応

■評価結果：適切である。

■この項目全体の4段階評価 委員平均ポイント : 4.0

評価項目	評価項目ごとの委員平均ポイント 適切 4、ほぼ適切 3、 やや不適切 2、不適切 1
感染予防対策を適切なタイミングで策定したか	4.0
学生の学修効果および健康に配慮した授業運営を実施したか	4.0
教職員の健康に配慮した学校運営を実施したか	4.0

■委員からの評価・意見

- 「感染予防対策を適切なタイミングで策定したか」
- 「学生の学修効果および健康に配慮した授業運営を実施したか」
- 「教職員の健康に配慮した学校運営を実施したか」

◆ 総 評

- ・芸術学校の潜在的な教育能力を広く周知するために今後一層の広報活動が求められる。
- ・パンデミックが落ち着きを見せたタイミングで広く受験者層を開拓する取り組みが期待される。
- ・全国的に夜間開講の専門教育制度は減じている。芸術学校は長い歴史と伝統があり、社会人を中心に高度な専門教育（建築家養成教育）を提供し、社会に貢献している。また、早稲田大学大学院への進学の道も用意されている。建築界で活躍している卒業生も多数輩出している。このことは他の専門学校とは一線を画したユニークかつ特筆されるべき特徴だと思う。社会に周知する努力と更なる応募者数の拡大を検討して欲しい。
- ・コロナ禍でのリモート授業は定着しており効果も見られる。今後も対面授業とリモート授業を活用し、上手く組み合わせる学校運営に当たって欲しい。
- ・コロナ禍で行った対応は、夜間・社会人・ダブルスクールといった芸術学校の特性へフィードバックできる知見が数多くあったと思われる。以前の状況に戻ってもその経験を精査し、先進性・柔軟性を持ち、より学生側に立ったきめ細かい教育ができる学校として発展し続けて欲しい。